

## 1-1 課題の背景(対象の概要)

### ●南三陸大粒ぶどう協議会

令和5年に町の生産者で設立

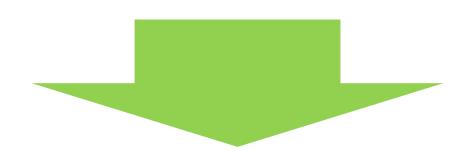
会員:11人 栽培面積:約85a(R7.2現在)

<協議会の目的>

- ・高品質ぶどうの生産販売
- 環境にやさしい栽培(化学肥料・農薬低減、町内未利用 資源の活用等)の実施
- ・ブランド化による生産拡大

### 1-2 課題の背景(ねらい)

- ●ブランド化支援 ➡認知度向上・販売力強化
- ●技術力向上に向けた支援➡技術平準化・高品質化
- ●環境にやさしい取組の導入→環境負荷低減・付加価値向上



南三陸町におけるぶどう生産量の増加と新たな産地形成

## 2 今年度の目標

- (1)南三陸町産ぶどうのブランド化
- (2)技術力向上及び環境負荷低減の取組や新技術の導入

### く数値目標>

ブランド化したぶどうの販売量

[R5]  $0kg \rightarrow [R6] 240kg \rightarrow [R7] 300kg$ 



- ・話合いの場の設置に よる意見集約
- 町の事業を活用した ロゴマーク等の作成 支援



南三陸町の海と里山が近いイメージ

⇒ブランド名「しおかぜ葡萄」に決定 ロゴマーク、ポスター等の作成



- ●目揃え会開催支援
- -2回開催(8/8、8/23)
- ・果実品質等を会員で 目合わせ

- ・出荷基準を策定⇒品質の統一
  - ①房重量が赤・黒系品種で概ね300g以上、黄緑系品種で概ね400g以上で房型が良好なもの
  - ②果粒が揃っており、目立った小粒のないもの
  - ③病害虫や果皮の汚れ等が目立たないもの
- 会員同士で生産物を確認
- ⇒高品質化に向けた意識の高まり

#### ●メディアでのPR

多くのメディアに取り上げてい ただきPR ⇒ 認知度向上

(新聞)三陸新報、河北新報、 日本農業新聞(東北版)、 読売新聞(東北版)

(テレビ)NHK仙台、東北放送、 ミヤギテレビ、東日本 放送、仙台放送

(その他)町観光協会HP、気仙 沼地振SNS等

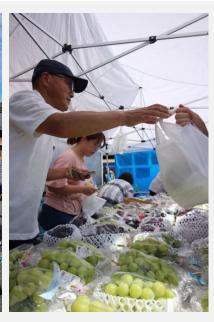


TBC東北放送「肥料にはカキやホタテの殻 大粒のシャインマスカットやピオーネが新たなブランド「しおかぜ葡萄」に宮城・南三陸町」から引用

https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/1412276?display=1

- ●お披露目販売会開催支援
  - 9/7 会場: さんさん商店街
  - 事前準備(開催時期·会場調整、PR、情報共有、役割分担等)支援
  - 当日の運営支援





- 〇販売前から100人以上の行列!
- 〇販売:519品 売上:475,500円
- 〇用意した519品が完売

△来客多数で個数制限

### ●スイーツ等への広がり

町内の菓子店や飲食店で「しおかぜ葡萄」を使ったスイーツが販売

### ⇒ 認知度向上、販路拡大







## 3 活動と成果 (2)技術支援





#### ●巡回指導、研修会開催

- ・定期的な巡回指導により 技術の習得・実施を支援
- ・栽培研修会は5月(ジベ 処理)、6月(摘粒)、12月 (せん定)の3回開催
- •7月に先進的生産者(2 戸)の取組を視察



今作から販売を開始した 会員の果房

- ・誘引、ジベレリン処理、摘粒等の重要管理の適期実施
- ・前作まで果実品質が悪く、販売に至 らなかった会員も販売できる品質に

## 3 活動と成果 (2)技術支援





- ●環境負荷低減の取組、 新技術の導入支援
- ・メタン発酵消化液の活用 に向けた試験施用(7月)
- ・シャインマスカットの果皮 黄化・かすり症軽減のため、有色果実袋の利用を 展示実証(7~10月)



果皮黄化、かすり 症の発生果 (令和5年)



有色果実袋で袋掛けを 行ったシャインマスカット

- 会員各自がメタン発酵消化液や 貝殻の施用などの取組を実施
- ・シャインマスカットの有色果実袋 利用を会員7人が実施
  - ⇒目立った果皮の黄化・かすり 症の発生なし

## 3 活動と成果 (2)技術支援

- ●環境負荷低減の取組、新技術の導入支援
  - 未利用資源を活用した新たな取組の普及による取組強化 「せん定枝の炭化による炭素貯留」
  - ⇒次年度以降、野積や焼却処分されていたせん定枝を炭化し、土壌に施用することで、温室効果ガス削減に取り組む

#### 実演会を2月14日に開催予定





新潟県「無用な果樹せん定枝を炭化 処理して地球温暖化防止に貢献!」 から引用

https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/nosoken\_engei/saijiki20221102.html

### 3 活動と成果

#### ●反省会開催支援

ブランド化、栽培管理、販売状況などについての振り返りを実施

#### ●収穫販売実績調査

ぶどう収穫量及びブランド化したぶどう販売量を聞き取り調査

#### ●次年度計画の検討支援

会員との打ち合わせや役員会等 で次年度の取組案を提案



### 4 目標達成状況

- (1)南三陸町産ぶどうのブランド化
  - ⇒「しおかぜ葡萄」のブランド化は順調なスタートを切る ことができ、一定の周知を図ることができた
- (2)技術力向上及び環境負荷低減の取組や新技術の導入 ⇒概ね達成だが、さらなる支援が必要

#### く数値目標>

ブランド化したぶどうの販売量

【R5】0kg → 【R6】240kg → 【R7】300kg 【実績】867kg

## 5 次年度へ向けて

#### ●生産量の増加

今作は消費者、実需者からの二一ズに応えきれなかった

⇒収量向上による「しおかぜ葡萄」生産量の増加 PR等による新たな生産者の掘り起し

#### ●実需者との連携強化

菓子店等「生産者や品種毎の収穫量・収穫時期がわかると、 もっと商品を作りやすい」

⇒会員、品種ごとの収穫時期・収穫量の情報共有

# 5 次年度へ向けて

#### ●栽培面の課題への対策

課題	対策
裂果の発生	・適正着房数を守る、大房にしない ・適正樹勢への誘導など
着色不良 着色遅延	・適正着房数を守る、大房にしない ・副梢管理による棚面の明るさ確保 など
日焼け	<ul><li>カサ掛け</li><li>土壌の乾燥防止 など</li></ul>
うどんこ病の発生	・適期防除の徹底

# 5 次年度へ向けて

- ●環境負荷低減の取組の強化
  - せん定枝の炭化による炭素貯留の取組の導入支援
  - •「見える化ラベル」の取得による付加価値向上も視野に

せん定枝の炭化による 炭素貯留





農林水産省 「見える化ラベル」 栽培における温室効果ガス削減の取組を 削減レベルに応じて 星の数で表示できる 制度



# 6 対象者からの意見

令和5年の協議会発足以来、栽培指導はもちろんのこと、ブランド化についても支援いただき、大変ありがとうございます。9月に開催した販売会では多数の来客があり、用意したぶどうが完売するなど大きな成果がありました。会員の皆さんも意識が高まり、より良いものを目指そうと良い関係ができました。

新たな課題も見えてきましたので、引き続き支援をお願いします。

(南三陸大粒ぶどう協議会長)